

今週の為替相場見通し(2023年2月13日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		129.80 ~ 132.90	131.42	129.50 ~ 133.50
ユーロ	(ドル)		1.0666 ~ 1.0800	1.0678	1.0500 ~ 1.0800
(1ユーロ=)	(円)		139.56 ~ 142.95	140.31	138.00 ~ 143.00
英ポンド	(ドル)		1.1962 ~ 1.2193	1.2059	1.1900 ~ 1.2300
(1英ポンド=)	(円)	*	157.43 ~ 159.95	158.51	156.00 ~ 161.00
豪ドル	(ドル)		0.6856 ~ 0.7011	0.6919	0.6850 ~ 0.7000
(1豪ドル=)	(円)	*	90.23 ~ 91.95	90.91	90.10 ~ 91.70

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 甲斐 貴之

(1)今週の予想レンジ: 129.50 ~ 133.50 円

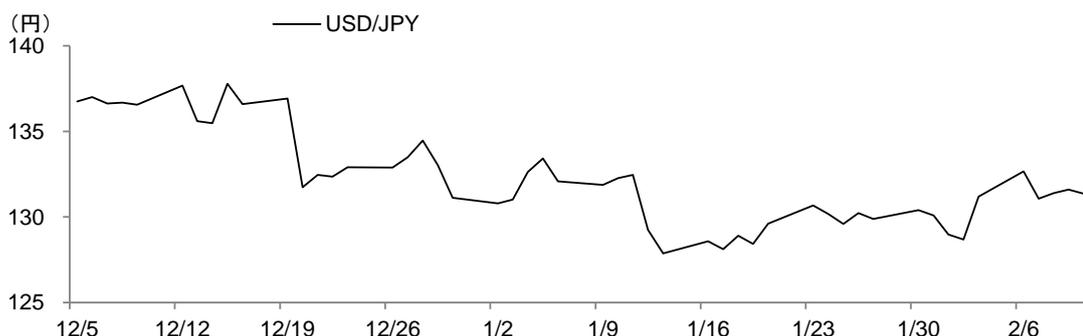
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、パウエルFRB議長の発言や、日銀新人事に関する観測報道を受け下落した。週初6日、「政府が日銀次期総裁に関し雨宮氏に打診する案を調整」との観測報道を背景とした円売りを受け、132.06円でオープンしたドル/円は、仲値にかけて132円台半ばに続伸も、その後は失速し132円を割り込んだ。海外時間は米金利上昇を受け一時週高値となる132.90円をつけた。7日、ドル/円は円買い相場の中、132円台前半でじり安推移。海外時間は、パウエル議長が「ディスインプレのプロセスが始まった」などと発言し、市場が警戒していたよりもタカ派ではなかったことから米金利低下とともに一時130.50円付近に急落した。8日、ドル/円は材料難の中、131円を挟んだレンジ推移。海外時間は、ウィリアムズ・NY連銀総裁によるタカ派な発言を背景に、米金利上昇を受け131.50円付近に上昇した。9日、ドル/円は日銀新総裁に関する観測報道で上下も、円買い相場の中、131円台前半でじり安推移。海外時間は、米金利低下を背景に一時130.34円に続落するも、引けにかけては軟調な米国債入札を受け、米金利反転とともに131.50円付近へ値を戻した。10日、ドル/円は引き続き131円台半ばで推移。夕方に「日銀新総裁、植田和男氏を起用へ」とのヘッドラインが流れると、雨宮正佳氏が広く予想されていた中市場は円買いで反応、一時週安値となる129.80円まで急落した。ただし、その後は植田氏が「現状では金融緩和の継続が必要だ」と述べたことに加え、米金利上昇も相まってドル/円は反発、131円台半ばで越週した。

今週のドル/円相場は、堅調な米指標の流れにドルが強含む流れを予想する。先々週の市場予想を上回る米1月雇用統計の結果から市場が織り込むFRBの利上げの到達点が5%台に上昇、ドル/円も131円台を回復しており、引き続き米指標の動向には注目が集まる。かかる中、14日(火)に米1月消費者物価指数(CPI)が公表される。12月の結果は+6.5%(前年比、以下同様)と11月の+7.1%から減速。市場予想と一致も、2021年10月以降で最も低い伸びとなった。また、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは+5.7%と11月の+6.0%から減速し、市場予想と一致、2021年12月以来の低水準となった。資源価格下落や供給制約緩和を背景に非コア価格(食料・エネルギー)やコア財価格のピークアウトが顕著な一方、コアサービス価格の騰勢鈍化は確認できていない。引き続き、サービス価格を中心とした伸びが続き、市場予想を上回った結果ドル買いが再燃する可能性には留意したい。今週は14日(火)米1月CPI、15日(水)に米1月小売売上高、米1月鉱工業生産、16日(木)に米1月生産者物価指数、17日(金)に米1月輸出/輸入物価指数が発表予定となっている。

(3)先週までの相場の推移

先週(2/6~2/10)の値動き: 安値 129.80 円 高値 132.90 円 終値 131.42 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.0500 ~ 1.0800 138.00 ~ 143.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は、前週に公表された米1月雇用統計の余波が残る中、週初に下落し、その後は方向感なく推移した。週初6日、1.0789でオープンしたユーロ/ドルは、前週からのドル買い相場が継続。海外時間入り後も堅調な米金利を眺めながらドル買いに押され1.07台前半まで続落。7日、パウエル議長の発言を警戒した米金利上昇を受け、一時1.067に下落。その後、1.0700付近まで買い戻されると、パウエルFRB議長の講演でドル売りが強まり1.0767まで続伸。8日、独金利上昇を受けて1.07台後半に上昇するも、NY時間にはFRB高官の発言が材料視され、米金利上昇を背景に1.07台前半に往って来い。9日、欧州株の堅調推移がユーロ買いをサポートしたことや欧米金利差縮小を背景に1.08を目指す展開。NY時間には米金利低下にサポートされ、1.0791をつけるも、1.08台回復とはならず。その後はドル買い相場の中、1.07台前半に下落した。週末、日銀新総裁に関するヘッドラインを受け、対円のドル売りがユーロドルにも波及。一時1.0752まで上昇するも、その後はドル買い優勢に転じたことから1.068台後半へ下落。NY時間に入ると米金利上昇を受けてドル買いが先行し、一時週安値となる1.0666まで下押し。しかし、週末を控え、積極的な取引が手控えられる中、終盤にかけては小動きとなり1.0678で越週した。

今週のユーロ/ドル相場は軟調な展開を予想。1月から2月の初めにかけて堅調な欧州経済指標とECBのタカ派スタンスを受け急速にユーロ高が進んだが、米国の強い労働市場の指標もありその後は調整が進んだ。もともとユーロは昨年年初から下落トレンドが続き、10月に反転。その後は右肩上がりにより上昇を続け、節目1.10まで上値を伸ばし、達成感もあったことから調整はまだ続くと考え。今週は欧州で目立ったイベントがない中、米国では14日(火)に1月消費者物価指数(CPI)が公表予定。事前予想はインフレ減速を見込むが、市場の見通しほどインフレ鈍化が確認されない場合、1月米雇用統計で労働市場の強さが再確認された直後というタイミングも相俟って、FRBによる利上げ期待の再燃によってドル買い優勢の展開が予想される。ECBも高止まりするインフレ抑制のためタカ派スタンスを継続しているが、FRBのタカ派化への思惑は、市場では一度縮小していただけに、材料視され易いと考え。

(3) 先週までの相場の推移

先週(2/6~2/10)の値動き: (対ドル) 安値 1.0666 高値 1.0800 終値 1.0678
(対円) 安値 139.56 高値 142.95 終値 140.31



(資料)ブルームバーグ

3. 英ポンド

欧州資金部 神田 史彦

(1) 今週の予想レンジ: 1.1900 ~ 1.2300 156.00 ~ 161.00 円

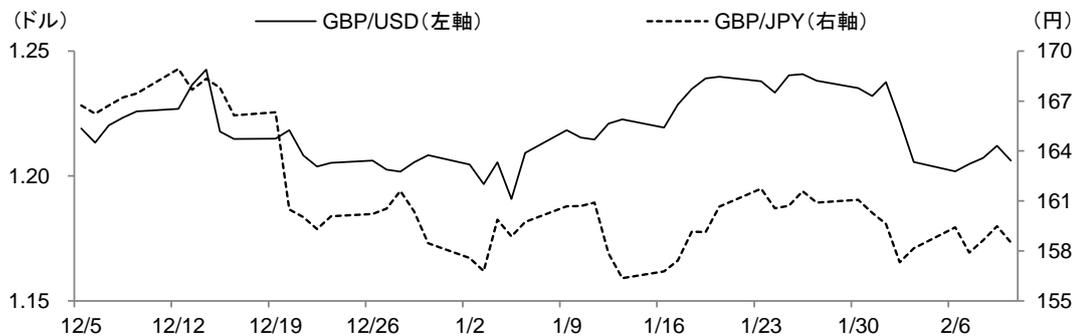
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は週を通して上下に振れたもののほぼ変わらずとなった。週初6日は、対ドルで1.20台半ばで始まる。前週の米1月雇用統計を受けたドル買いが継続しじりじりと売られる展開で、翌7日には日中1.20台を割り込むがNY時間にパウエルFRB議長がディスインフレのプロセス開始について発言したことでドル売りとなり1.20台半ばを回復。その流れを引き継ぎ8日には一時1.21台まで買われるも勢いは続かず。9日は再びドル売りとなり1.21台後半へ。しかしNY時間に米金利が上昇に転じるとポンドは売りに押される。週末10日は朝方、注目の英10~12月期GDP(速報)が発表となり、結果は前期比ゼロ成長となった。これにより(テクニカルに)英経済は不況を当面回避した。ただ英ポンドの反応は薄く、若干買われるにとどまる。日銀人事報道にドル/円が振られ、ドル/円が買い戻されるとポンドは上値重く1.21を割り込む。その後は1.21を挟んだもみ合いとなりNY時間を迎えた。一方で対円では前週のレンジ内での推移に留まった。

今週の英ポンド相場は、上値重い推移継続を見込む。先週末にかけて、やや米政策金利の先高観への思惑も出たが、英国についてはそのような憶測はない。ペイリー英中銀総裁は9日の議会証言で、賃金上昇によるインフレリスクには触れつつ、インフレがピークアウトし昨年時点の予想よりも低い水準にある、との認識を示したことに、もはや市場は反応しなかった。また、ひとまずテクニカルリセッションの回避を果たした英経済ではあるが決して楽観できる状況ではないことは明らか。引き続き英国内では各セクターでのストライキが発生しており、センチメントが良いとは決して言えない。今週も15日(水)に英1月消費者物価指数、17日(金)に英1月小売売上高と主要指標が出される。先月時点のハードデータであり、それぞれの結果で予想外に増加があるとポンドの上方リスクとなり得るが、単月の指標のみでは現状のポンド下落トレンドの転換にはならないだろう。対円では、依然上下に振れる展開が続いているが、週の高値水準は切り下がってきている。日銀人事はひとまず急激な政策変更を示唆していないが、日本の金融政策が正常化に向かう流れから円高圧力はかかきやすく、ポンド/円も上値重い展開が続きそうだ。

(3) 先週までの相場の推移

先週(2/6~2/10)の値動き: (対ドル) 安値 1.1962 高値 1.2193 終値 1.2059
(対円) 安値 157.43 高値 159.95 終値 158.51



(資料)ブルームバーグ

4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤愛

(1)今週の予想レンジ: 0.6850 ~ 0.7000 90.10 ~ 91.70 円

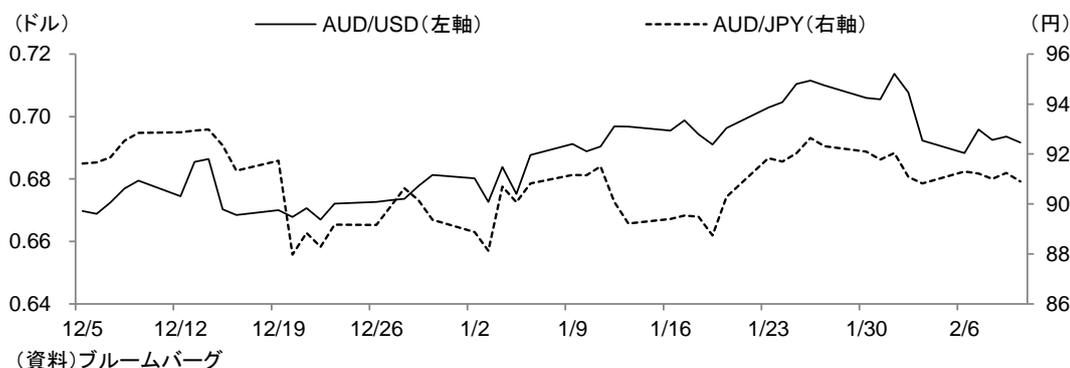
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは0.69台を中心に大きくもみ合い。前週金曜日の強い米1月雇用統計を背景とした米ドル買いの流れを引き継ぎ、6日、オープン後は売りが優勢。その後はスクイーズの買いや豪金利の上昇等を背景にすぐに上昇に転じ一旦0.69台半ばまで上昇するも、NY時間かけて反落して0.68台後半で引けた。7日、今年初回となるRBA理事会では、事前予想通り政策金利を+25bp引き上げ3.35%とした。声明文では、「今後数か月で更なる利上げが必要になると考えている」との文言を維持する一方、「政策の道筋は事前に決まっていない」という文言を削除した。声明文のトーンやフォワードガイダンスの変化がタカ派的と解釈され、豪国債先物は下落、豪ドルは買いで反応した。ただ、豪ドル買いの流れは長く続かず0.6950近辺で一旦失速。その後パウエルFRB議長がインタビューで「2023年はインフレが大幅に鈍化する年になる」と述べたことが材料視され、瞬間的に0.6989まで上昇したがすぐに売られて往って来い。その後はパウエル議長発言を消化しつつ株価が上昇幅を拡大する動きを受けて、豪ドルも0.69台半ばまで上昇。8日、序盤は前日の流れを引き継ぎ買いが優勢の展開に。心理的抵抗線である0.70手前まで上昇して跳ね返された。FRB当局者数名からタカ派的な発言が相次ぎ米株が下落幅を拡大させる中、豪ドルは0.69台前半まで売り込まれた。9日、豪金利上昇や堅調な株価を背景に一時0.7011まで上昇。NY時間に入り米30年国債入札が低調だったことをきっかけに米国債利回りが急上昇すると、米株が反落し、豪ドルも下落。日中の上昇幅をほぼ解消し、往って来いの展開となった。10日、日銀新総裁人事に関するヘッドラインをうけた円高の流れを受けて連れ高となり一時0.6960近辺まで上昇したが、その後発表されたミシガン大学1年先期待インフレ率(速報)が上振れたことで米金利が上昇幅を拡大する中、豪ドルは売り戻され0.69台前半で越週した。

今週の豪ドル相場は、上値重い値動きを予想する。今週は14日(火)米1月消費者物価指数(CPI)、15日(水)ロウRBA総裁議会証言、16日(木)豪1月雇用統計などが予定されている。豪12月雇用統計では就業者数が市場予想に反してマイナス増となり、市場にサプライズを与えた。先週発表されたRBA四半期金融政策報告書でも、足元の雇用市場の逼迫は徐々に緩和してくることを予想しているものの、豪1月雇用統計においては未だに堅調さが維持されると見る向きが多い。市場コンセンサスは雇用者数2万人増、失業率は3.5%を維持。一方、パウエル議長が年内にインフレが大幅鈍化すると述べるなど、米国では物価上昇圧力の低下に自信を持ち始めている状況。今週発表される米1月CPIが想定外に強い内容となった場合は、堅調だった米1月雇用統計の結果と相まってターミナルレート織り込みが一層進むことになる。米インフレ圧力緩和がメインストーリーとなっている中、強い結果に大きく反応する可能性が高いと考えており、リスクの方向性は米金利上昇・米ドル高、豪ドル安と考える。更に足元石炭価格の下落が進んでいることも豪ドルの頭を押さる要因となろう。

(3)先週までの相場の推移

先週(2/6~2/10)の値動き: (対ドル) 安値 0.6856 高値 0.7011 終値 0.6919
(対円) 安値 90.23 高値 91.95 終値 90.91



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。